

中学校
国語科
授業改善
事例Ⅰ

授業改善事例Ⅰ 学習指導計画編

第2学年

単元名「根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く」

（国語2 光村図書）

Ⅰ 単元の目標

- (1) 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。
〔知識及び技能〕(2)ア
- (2) 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

2 本単元における言語活動

社会生活の中から、関心のある事柄を選び、意見文を書く。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)ア）

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	①「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)	①積極的に意見と根拠との関係について理解し、学習の見通しをもって自分の意見が伝わる文章を書こうとしている。

4 指導と評価の計画（全5時間）

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○単元の目標や計画をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○自分の意見が伝わる文章にするために、どのような工夫をするとよいかを考える。 ○社会生活の中からテーマを選ぶ。		
2	○前時に決めたテーマについて、どのような長所や短所があるのかを整理し、分析する。 ○テーマについて、賛成・反対の立場を決め、その意見の根拠について考える。 ○同じテーマを選んだ生徒同士で、自分の意見とその根拠について検討する。	〔知識・技能〕①	ワークシート・観察
3	○意見文の構成を考え、構成メモを作成する。 ○構成メモを基に、意見文の下書きを書く。	〔思考・判断・表現〕①	意見文の下書き原稿
4	○読み手からのアドバイスを基に、意見文を推敲して清書する。		
5	○違うテーマを選んだ生徒同士で意見文を読み合い、意見が伝わる文章になっているか確認して、相互にアドバイスを行う。 ○自分の書いた意見文を振り返る。 ○単元全体の学習を振り返る。	〔主体的に学習に取り組む態度〕①	振り返りの記述（単元の計画表）・推敲した意見文

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○「中学生にスマートフォンは必要である」というテーマについて、賛成の立場で三百字程度の意見文を書く。 ○単元の目標や計画をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○自分の意見が伝わる文章にするために、どのような工夫をするとよいかを考える。 ○社会生活の中からテーマを選ぶ。	・自分が書いた意見文を読むことで、単元を通して、より自分の意見が伝わる文章を書くことができるようになりたいという、学習の動機付けを行う。 ・意見文のモデルを示すことで、自分の意見が伝わる文章にするためには、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加える必要があるということに気付くことができるようにする。 ・複数のテーマを用意することで、生徒一人一人の関心に応じてテーマを選ぶことができるようにする。 ・各テーマに関連する事実や事柄を幅広く集めた情報シートを提供することで、テーマについて知り、テーマを選ぶことができるようにする。	本時は、B(1)アに基づいて学習状況を捉え、指導を行うが、単元の目標としていないことから、本単元の評価には含めない。
2 本時	○前時に決めたテーマについて、どのような長所や短所があるのか整理し、分析する。 ○テーマについて、賛成・反対の立場を決め、その意見の根拠について考える。 ○同じテーマを選んだ生徒同士で、自分の意見とその根拠について検討する。	・1人1台端末のホワイトボード機能を活用して黄色の付箋に長所を、ピンクの付箋に短所を書くようにすることで、テーマについての自分の考えを整理できるようにする。 ・1人1台端末のホワイトボード機能の付箋を基に、ワークシートに「根拠とする事実や事柄」、「事実や事柄に対する解釈」、「意見」について整理することで、書こうとする根拠が適切であるかどうかを検討することができるようにする。 ・根拠の適切さを確認するポイントを黒板に提示することで、気付きを伝え、検討することができるようにする。	【知識・技能】① ワークシート・観察 ・ここでは、自分の意見を、事実や事柄に対する適当な解釈から導き出しているかを確認する。
3	○意見文の構成を考え、構成メモを作成する。 ○同じテーマを選んだ生徒同士で、構成メモを見て、相互にアドバイスをを行い、構成メモを修正する。	・意見や根拠などを内容ごとに付箋に書き、順番を入れ変えるなどしながら構成を考えることができるようにする。 ・根拠の適切さを確認するポイントを黒板に提示することで、構成メモのよい点や改善点について気付きを伝えることができるようにする。	

	○構成メモを基に、意見文の下書きを書く。	・アドバイスを基に、構成メモを修正するように伝える。 ・ヒントを示した下書き用紙やヒントのない下書き用紙など、数種類の下書き用紙を準備し、一人一人の特性に応じて選択して書くことができるようにする。 ・必要に応じて、分からないことを友達に聞いてもよいことを伝える。	[思考・判断・表現] ① <u>意見文の下書き</u> ・ここでは、事実や事柄に対する適当な解釈から自分の意見を導き出すとともに、根拠を具体的に記述しているかを確認する。
4	○同じテーマを選んだ生徒同士で意見文の下書きを読み合い、根拠の適切さを考えることにより、意見が伝わる文章になっているかを確認して、相互にアドバイスをを行う。 ○読み手からのアドバイスを基に、意見文を推敲して清書する。	・根拠の適切さを確認するポイントを黒板に提示することで、読み手が下書きのよい点や改善点について気付きを伝えることができるようにする。 ・根拠とする事実や事柄の示し方が、意見が伝わる文章になるために機能しているか、読み手の立場に立って検討するように促す。	本時は、B(1)エに基づいて学習状況を捉え、指導を行うが、単元の目標としていないことから、本単元の評価には含めない。
5	○違うテーマを選んだ生徒同士で意見文を読み合い、根拠の適切さを考えることにより、意見が伝わる文章になっているかを確認して、相互にアドバイスをを行う。 ○自分の書いた意見文を振り返る。 ○単元全体の学習を振り返る。	・根拠の適切さを確認するポイントを黒板に提示することで、読み手が意見文のよい点や改善点について気付きを伝えることができるようにする。 ・読み手からのアドバイスを確認することで、意見が伝わる文章になっているか考えることができるようにする。 ・単元の始めに書いた意見文と、根拠の適切さを考えて書いた意見文を比較することで、自身の学びの変容について捉えることができるようにする。 ・振り返りの視点を示すことで、本単元で学んだことを、今後の学習でどのように生かしていくのかについて考えることができるようにする。 【振り返りの視点】 ①単元の目標を達成するために頑張ったこと ②単元で工夫しようとしたが十分ではなかったこと ③今回学んだことを、これからどのように生かしていくか	[主体的に学習に取り組む態度] ① <u>振り返りの記述（単元の計画表）・意見文</u> ・ここでは、根拠の適切さを考え、自分の意見が伝わる文章を書こうとしているかを確認する。 *本評価は、全ての時間の振り返りの記述等を合わせて評価する。

5 本時の目標

自分の意見が伝わるように、根拠の適切さを考えることができる。

6 本時の展開（2／5）

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 【評価方法】等
導入	1 前時の学習を振り返り、本時の目標と学習内容を確認する。	自分の意見が伝わる文章にするためには、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加える必要があるという前時の学習内容を確認し、本時から実際に意見文を書き始めることを伝える。 自分の意見が伝わるように、根拠の適切さを考えよう。	
展開	2 前時に決めたテーマについて、どのような長所や短所があるのか整理し、分析する。 3 テーマについて、賛成・反対の立場を決め、その意見の根拠について考える。 4 同じテーマを選んだ生徒同士で、自分の意見とその根拠について検討する。	- 前時に提供した各テーマに関連する事実や事柄を幅広く集めた情報シートを基に、テーマについて分析するように伝える。 1人1台端末のホワイトボード機能を活用して黄色の付箋に長所を、ピンクの付箋に短所を書くようにすることで、テーマについての自分の考えを整理できるようにする。 - モデルの付箋を示すことで、付箋に長所や短所を書く際は、事実や事柄と、その事実や事柄をどのように解釈したのかを書くことができるようにする。 1人1台端末のホワイトボード機能の付箋を、同じテーマを選んだ生徒同士で共有できるように設定することで、友達の考えを参考にして、自分の考えを広げることができるようにする。 1人1台端末のホワイトボード機能の付箋を基に、ワークシートに「根拠とする事実や事柄」、「事実や事柄に対する解釈」、「意見」について整理することで、書こうとする根拠が適切であるかどうかを検討することができるようにする。 - 意見がより明確に伝わるために、新たに根拠とする事実や事柄が必要だと感じた場合は、情報を集めてもよいことを伝える。 - 根拠の適切さを確認するポイントを黒板に提示することで、気付きを伝え、検討することができるようにする。 【根拠の適切さを確認するポイント】 ①事実や事柄に対する解釈が適当である ②事実や事柄を具体的に示している ③確かな事実や事柄に基づいたものである - アドバイスを基に、自分の意見とその根拠について再度検討し、気付きをワークシートに書く際は、色ペンを使うように伝えることで、考えの変容を見取ることができるようにする。	【知識・技能】① 【ワークシート・観察】 ここでは、自分の意見を、事実や事柄に対する適当な解釈から導き出しているかを確認する。
終末	5 本時の学習内容について、本時の目標に対応したまとめを行う。 6 本時の振り返りを行い、次時の学習内容を確認する。	- 数名のワークシートを大型モニター等に提示することで、意見が事実や事柄に対する適当な解釈から導き出されていることについて確認する。 - 振り返りの視点を示し、自身の学習の状況を捉えることができるようにする。 【振り返りの視点】 ①本時で学んだこと ②これからの学習で頑張りたいこと - 次時は構成メモを作成し、意見文の下書きを書くことを確認する。	

7 本時の評価規準と判定基準

本時の評価規準【評価方法】	判断のポイントと指導の手立て
自分の意見を、事実や事柄に対する適切な解釈から導き出しているか。 【ワークシート・観察】	「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント ・自分の意見を、根拠とする事実や事柄に対する適切な解釈から導き出していることをワークシートに記述している。 「十分満足できる」状況（A）の例 ・意見がより明確に伝わるようにするために、根拠とする事実や事柄について確かな情報を新たに集めたり、根拠とする事実や事柄を複数挙げ、それらの事実や事柄と、意見との関係について適切に記述したりするなどしている。 「努力を要する」状況（C）と考えられる生徒への指導の手立て ・根拠とする事実や事柄から、自分の意見が導き出されるのは適当か吟味できるように、前時の学習内容を提示するなどして助言を行う。